

## ◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の追加報告が16例で、すべて同一施設(0～5歳)及びその家族(7歳)の感染例となっています。本年の累積報告数は73例で、感染症法に基づく届出の対象となった平成11年4月～平成20年の同時期までの累積報告数(24例～78例)と比較すると、平成20年(78例)に次いで多い値となっています。
- ・ インフルエンザ患者の集団感染(クラスター)の報告数は、京都市、全国ともに大幅に増加しています。新型インフルエンザによる全国の入院患者数は、10月7日～10月13日で364人で、そのうち基礎疾患を有する者等が115人、急性脳症・人工呼吸器使用患者数は32人です。

## ◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は9.38(638例)で、先週(5.63)に比べ大幅に増加しており、注意報の基準値(10)に近い値となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者なし), (喀痰塗抹陽性 1例)  
【1月以降の累積報告数 293例(肺結核 192例, 肺外結核 67例, 無症状病原体保有者 34例), (喀痰塗抹陽性 91例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症 16例(第38週15例, 第40週1例追加)【1月以降の累積報告数 73例】

### インフルエンザ情報

- ・ 集団感染(クラスター)報告件数の推移[暫定値]
- ・ 全国の新型インフルエンザ(A/H1N1)による入院患者数

	第38週	第39週	第40週	第41週
京都市	75	32	83	132
全国	4098	3053	5432	8047

	第38週	第39週	第40週	第41週
患者数	152	152	198	364
うち,基礎疾患等を有する者	62	55	70	115

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	9.38	638
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.20	90
	② ヘルパンギーナ	0.34	14
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	13
	④ 水痘	0.22	9
	④ 突発性発しん	0.22	9
	④ 流行性耳下腺炎	0.22	9
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

### 病原体情報

ありません。

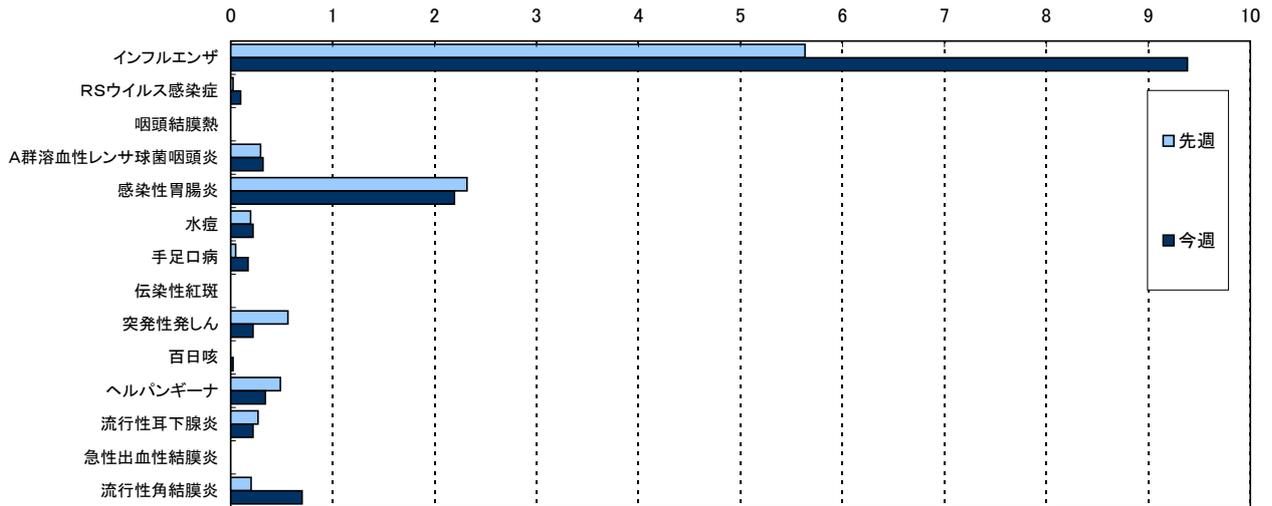
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

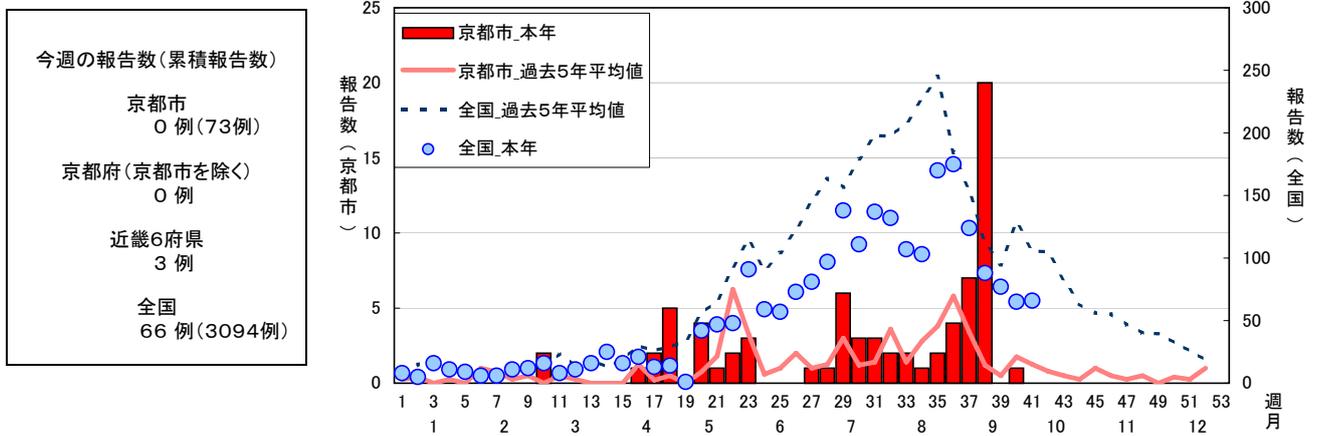
(注)京都市のデータは、平成21年10月15日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第41週)と先週(第40週)の定点当たり報告数の比較



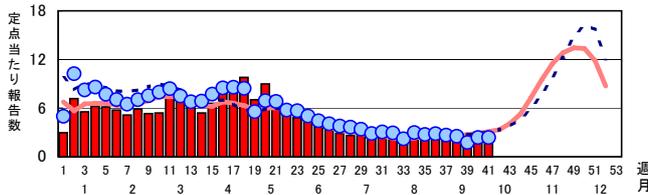
## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移



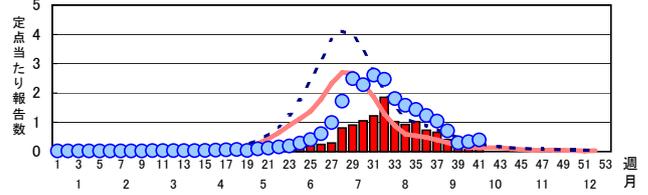
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

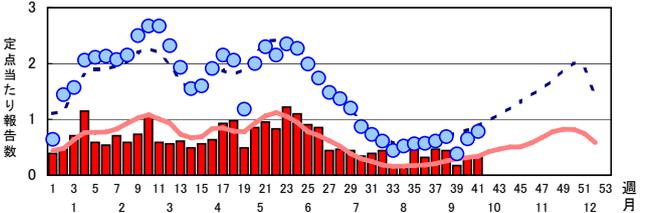
1 感染性胃腸炎



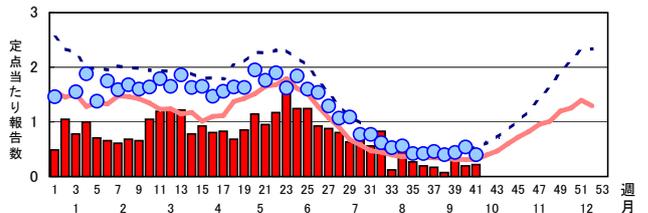
2 ヘルパンギーナ



3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

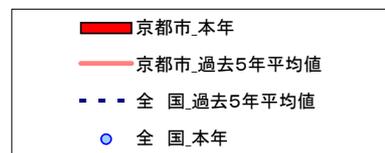
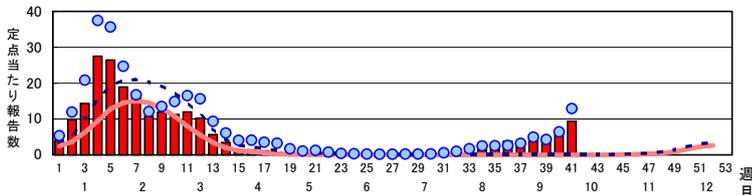


4 水痘



<インフルエンザ定点>

インフルエンザ



# 第41週(10月5日～10月11日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は9.38(638例)で、先週(5.63)に比べ大幅に増加しており、注意報の基準値(10)に近い値となっています。全国では12.92と、注意報の基準値(10)を超える値となっています。

年齢群別構成割合では、依然として、「10～14歳」が多くなっているものの、先週に比べ、10歳未満の割合が増加しています。

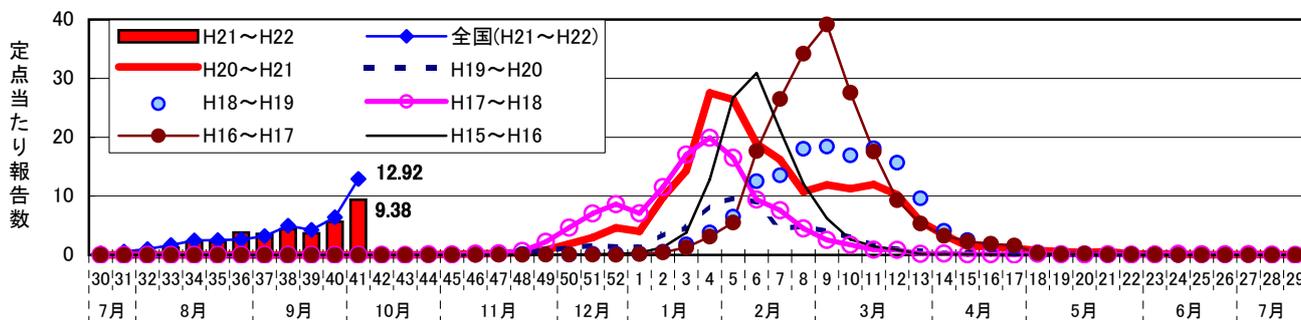
行政区別定点当たり報告数をみると、4行政区(中京、東山、南、西京)で注意報の基準値(10)を超えており、南区を除くすべての行政区で先週に比べ増加しています。

全国都道府県別では、12都道府県で10を超えており、うち7都道府県は政令指定都市のある都市圏です。近畿では、大阪府と兵庫県で10を超えています。

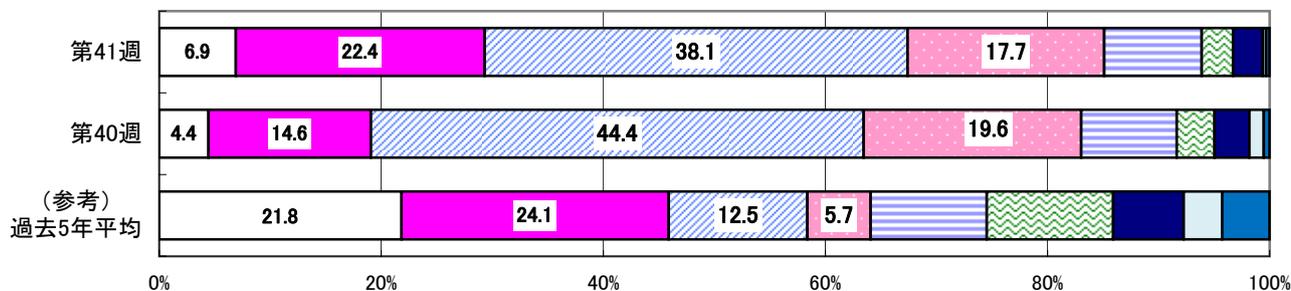
なお、第41週に京都市衛生公害研究所で遺伝子検査によりインフルエンザA型陽性となった29例(入院者から7例、病原体定点から22例)は、すべて新型インフルエンザ(A/H1N1)[AH1pdm]です。

過去6シーズンでは、定点当たり報告数が1を超えてから4～7週後にピーク(定点当たり報告数が約10～30)となっていました。本年は1を超えてから現在8週目であるにもかかわらず、10代前半の報告が多いことや都市圏を中心に流行が拡大していることを考慮すると、今後も報告数の増加が予想されます。

本市の過去6シーズンの定点当たり報告数 推移

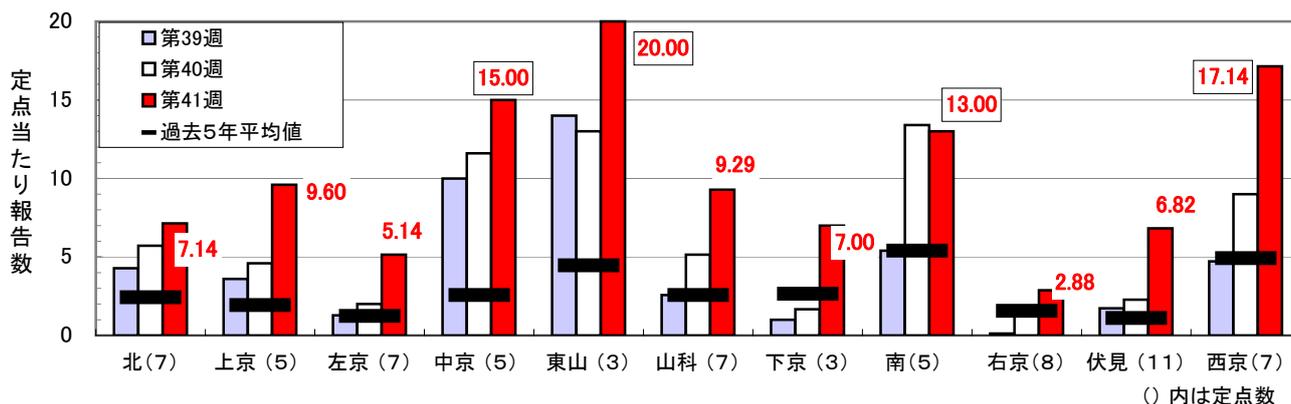


年齢群別構成割合の推移



□0～4歳 ■5～9歳 ▨10～14歳 ▩15～19歳 ▪20～29歳 ▫30～39歳 ▬40～49歳 ▮50～59歳 ▯60歳以上

行政区別定点当たり報告数の推移



( )内は定点数